

第4章

家族

—夫婦・子ども・兄弟姉妹—

岩佐 名穂子

はじめに

今回、私は調査員として、立命館大学学生8名と共に、京都市山科老人デイサービスセンターの協力の下、山科区に住む単身高齢者16名（男性3名、女性13名）に普段の生活実態について聞き取り調査を行なった。調査方法は対象者宅での約1時間の聞き取り調査で、調査員2～3名で訪問し、メモ記録とテープ録音によって記録していった。

この研究全体の目的は、単身高齢者の生活実態を把握することから、地域福祉活動の課題や制度の改善点を提案すること。そして、孤立・孤独とは何なのかを考えるとともに、孤立防止の課題を考え、その改善点を検討していくことである。そのために私たちはまず、記録テープを紙面に起こし、そしてその語りを内容別に分類していった。分類項目は①人生観・生い立ち・歴史、②家族関係、③友人・知人、社会資源との関係、④日常生活について、⑤介護サービスについて、⑥生活信条について、以上6項目であった。

その中で私は、②家族関係と③友人・知人、社会資源との関係の2項目の分類を担当した。この二つの関係に注目したきっかけは、私の祖母も一人暮らしをしていることだ。祖母は、介護認定は受けていないが、私たち家族がいくら近くで暮らそうと誘っても断って、長年暮らしてきた地域で今も生活している。一人で家族と離れて暮らしている祖母のことはずっと心配している。そこで、この単身高齢者調査をすることになり、祖母と似たような状況の高齢者とその家族関係に興味を持った。そして、地域で暮らし続けるためには地域とのつながりも必要であると考え、高齢者を支える“家族介護”と“地域福祉”の現状を見ていくことにした。

1 家族との関係

まず初めに、介護認定を受けて一人で暮らす高齢者とその“家族”との関係をみていくことにする。しかし“家族”と言ってもどこまでが家族なのか。民法第七百二十五条(親族の範囲)によると親族は、一、六親等内の血族、二、配偶者、三、三親等内の姻族と記されている。今回の調査対象者は、既婚者、離婚経験者、未婚者…と様々で、家族の話として語られる関係者の幅や人数はそれぞれ全く異なっていた。

しかし、あまり多くは語らない人や涙ながらに思いを語ってくれる人もおり、家族の話というかなりプライベートなことであるため、我々も無理に聞き出すということとはしていない。そのため、16人全員の意見というわけではないし、全てが本心であるかもわからないが、夫(妻)・子ども・嫁(婿)・孫・兄弟(姉妹)という項目に分けて、意見を分類していった。そこからみえてきたものは、“家族”との関係性だけではなく、“家族介護”の現状であるといえるだろう。

(1) 夫(妻)との関係

まず、夫(妻)との関係をみていく。既婚者にとって夫(妻)とは長年、苦楽を共に連れ添った人であるため、思いは尽きない。未だに寂しさが消えない人もいたし、冗談交じりで笑い話にする人や感謝の言葉を口にする人もいた。その一方で、辛い離婚経験や夫の介護経験を話してくれる人もいた。ここでは、夫(妻)への感情を肯定的なものとするものと否定的なものにさらに分類して紹介していく。

● 肯定的感情

- ◆ 酒が好きでね。酒で命落としてます。中途半端な死に方してね。…(中略)
…だんなねえ、73でしたわ。私が60いくつやから。嫁にすることもできやしませんやん。(笑)(91歳・女性・要支援2)
- ◆ この家の設計も自分でしたのに2年しかよう住まんで可哀想やなと思って。

主人ばかり可哀想で、自分可哀想でない。(笑) (86歳・女性・要介護1)

- ◆ お父さん一人働いてね。(自分は)働くな、わしが働くからって言うて言うてね。ほんまに頑張ってくれてましたけど。(84歳・女性・要介護2)
- ◆ 努力家でしたねえ。こつこつこつこつとねえ、自分で石橋を叩いて、その上まだ叩いて渡るような、慎重な人でした。で仕事がもうとにかく、まあ仕事人間で、もう仕事の鬼みたいな人でした。ずーっともう四十何年、結婚してね、…でもまあそういう、頑張り屋さんやけど色々、たっぱり、男の人やからありますよねえ。もう、遊びに行かはったりとか、色んな、まあ、女性問題もありましたしね。(笑) (69歳・女性・要介護2)
- ◆ 主人は脳血栓でね、半身不随でね、私18年見てきましたよ。…(中略)…つらかったですけど、「なにくそ」、私にはね、悪い癖があって、「なにくそ」ってこうなりますねん。(78歳・女性・要介護1)

● 否定的感情

- ◆ あるところで会って、あるところで別れた。(82歳・女性・要介護2)
- ◆ 別れるってゆうのは子どものほうから請求したんですねん。やっぱり子どものこと考えるとね。…(中略)…辛いっっちゃうよりもスツとしたねえ。(81歳・女性・要支援2)
- ◆ 主人が浮気してね、そいで、家帰ってきいひんし…(中略)…私ももう嫌やしね。(82歳・女性・要介護1)

(2) 子どもとの関係

子どもとの関係は、密である人が多く、中には毎日連絡を取り合っているという人もいた。しかし長男とは疎遠であるが次男と長女とは頻繁に連絡を取るといふ人や、経済面で支えてもらっているという人もおり、関わり方も様々であった。経済面で援助してもらっているという人の話を伺っていると、年金だけでヘルパー利用料や家賃を払っていくのは厳しいという現状が窺えた。

また、子どもを頼りに思っている反面、どこか遠慮をしてしまうという意

見も目立った。

● 肯定的感情

- ◆ あの人（次男）がねよく面倒見てくれて。私買い物とかでちょっと重たいものとかあったらね、2日3日分買うの。…（中略）…娘はしょっちゅう電話かけてくれて…うちの直系の娘の方がものすごい私と（関係が）濃いわ。…（中略）…親子のつながりは濃いわ。（91歳・女性・要支援2）
- ◆ 何か言ったらきてくれて…（中略）…月に2、3回来てくれますからね。（88歳・女性・要介護3）
- ◆ （息子）優しいですわ、割合。お姉さん2人はしっかりもんやからね。まあ色々ね心配してくれてもろてますけど…（中略）…今でも娘、朝、一日一回必ず電話（してくれる）。（84歳・女性・要介護2）
- ◆ 心の中では私のことを思ってくれています。それはうれしいと。（78歳・女性・要介護1）
- ◆ 子どもできるとええのになあ言うてくれたけど、連れてきたこの子がかわいないと…それまでは子ども欲しかった。（82歳・女性・要介護2）
- ◆ 息子がね病人ですやろ…（中略）…「すまん」って一言いわはりますねん、それ言われると「ああ、看病してやらなあかん」って思ってね、ほんま泣きましたよ、私。（78歳・女性・要介護1）

● 否定的感情

- ◆ やっぱ子どもはほっとかへんやろうけどね。助けてくれるやろけど、やっぱりそれは、やっぱりしんどいですやん。そんなことしてもらうのは。（84歳・女性・要介護2）
- ◆ 子ども来てくれるのは嬉しいですけど…（中略）…子どもは子どもの世帯があるからねえ。（81歳・女性・要支援2）
- ◆ 気遣いますわ。向こうは向こうの生活がありますやろ。（82歳・女性・要介護2）

● 経済援助

- ◇ (仕送り) 少ないですけど息子がね、末っ子が2万円ずつ。…(中略)…月1万円、娘が。(91歳・女性・要支援2)
- ◇ 毎月ね。毎月5万円ずつくれるから。…(中略)…娘と息子がよくしてくれるから、幸せやなあと思うて。(87歳・女性・要支援2)

(3) 嫁(婿)との関係

嫁姑問題というのはいつの時代でもあるものだ。調査でも、普段はなかなか言えない思いを話してくれる人がいた。しかし、今回の調査では、否定的な感情を抱いている人よりも、肯定的で、親しくしている人のほうが結果的に多かった。

- ◇ お義母さん面倒見させてもらいますって(長男の)嫁さんが言ったわ。私は絶対に嫌やって言ってんよ。…(中略)…どこまで本心やろおって疑って。(91歳・女性・要支援2)
- ◇ その息子さん(娘の旦那)が優しいの。ほんまに。(自分にも)2人男の子いるけどあんなにも優しくないわ。「お義母さんをどっか連れてってやれ」「お義母さんにご馳走したれ」って。…(中略)…とにかく私をなんかあったら呼ばはんねん。どっか連れてってやれ、ゴハン食べさせてやれって。(91歳・女性・要支援2)
- ◇ 息子のお嫁さんもいい人なんですよ、それが。娘の主人もものすごいいい人なんですよ。みんな。息子の嫁さんの悪口言う人多いけど、私言うこと何にもないもん。…(中略)…幸せやなあと思うて。(87歳・女性・要支援2)
- ◇ (娘の)旦那さんが、よくしてくれはるんですよ私にも。…(中略)…食事によく誘ってくれたりねえ、で、日帰りで行けるちょっと遠出してまで、連れていってくれたりねえ…(中略)…まあそんなことをねえ、ちょこちょこしてくれるもんやから、私はまだ恵まれてるほうやなあと思って感謝してるんです。(69歳・女性・要介護2)
- ◇ うちはね、嫁さんがみなしてくれはりますねん。私のこと、お金のこと(78歳・

女性・要介護1)

- ◇ お嫁さんが2週間に一ぺん、息子が2週間に一ぺん来て、おかずね、お昼と夕飯おいしいものを食べさせて、7時半ごろ帰ってくれるんですよ。(88歳・女性・要介護3)

(4) 孫(ひ孫)との関係

孫との関係は親子関係に比べるとやはり少し薄いものを感じる。孫(ひ孫)について話が出たのは16人中5人だった。その中でも頻繁に会うという話は1名のみからしか出なかった。しかしこの場合は孫(ひ孫)の年齢(学生であるか、社会人であるか)とも関係しているとも考えられる。

- ◇ 孫もね来たらかわいいかわいいしてたから、みんな大事にしてくれます、(自分がかわいがってもらったことを)覚えてるから。(91歳・女性・要支援2)
- ◇ 孫も来てくれるのも嬉しいけど、もう孫もおつきからねえ。言いたいこともあんまり言えへんしね。(81歳・女性・要支援2)
- ◇ (孫と会う機会は)あんまりないな。向こうも孫なんか学校行ったり色々してるから、忙しいし、ねえ。(87歳・女性・要支援2)
- ◇ 大人になってきたから、時々、じゃなくてしょっちゅうここに私が夜一人なら心細いやろうしいうて、で仕事の帰りに寄ってくれて、で泊まって行ってくれる、こともあるんです。(69歳・女性・要介護2)
- ◇ 今度ひ孫が12月に結婚しますねん。…(中略)…それまでは私は絶対に死ねないの。(78歳・女性・要介護1)

(5) 兄弟姉妹との関係

自身の兄弟姉妹というのは、気を遣わずにいれる存在ということで、心強い支えとなるようだ。特に未婚の人にとって、親族は兄弟姉妹のみということになり、頼りにされていた。

また、昔の話をして思い出を共有できる人が少なくなっていることから、兄弟姉妹は貴重な存在であり、“姉がいれば…”と惜しむ言葉が印象的であ

った。

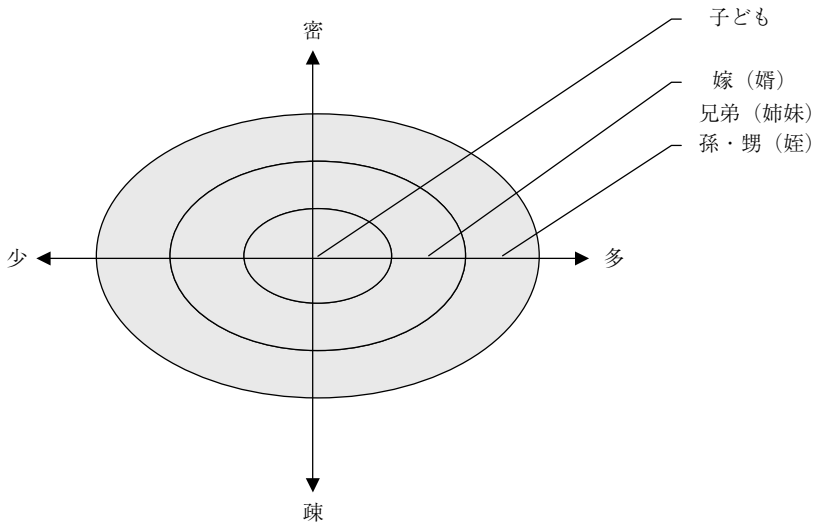
- ◆ 姉がおればね。…(中略)…姉やったら昔の話から今の話から子どもの話まで、ずーっとしゃべれるでしょ。それがない。(91歳・女性・要支援2)
- ◆ (妹と交流) あります。これがようしてくれます。(91歳・女性・要支援2)
- ◆ (近くに姉がいるから) ちょっと心丈夫です。もう姉が頼りやさかい。向こうは一生懸命面倒みてくれるけど、私はみてもろうてるほうや。…(中略)…前はよう来てくれてたけど、あの人も足の骨折ってからね。…(中略)…自分がたまにお買い物行くときここ通るんですよ。そしたら「何か買ってきてきたげよか？」言うて、寄ってきます。(81歳・女性・要介護1)
- ◆ 上の姉がね、横浜にいます。そこへよう電話しますねん。2番目のがね、アメリカにいますねん。向こう(姉)の、主人も亡くなったし、…(中略)…私がねえ、5年ほど前やったかな…アメリカ行っただすねん。いっぺん行きたいし…(中略)…1か月遊んで来た(82歳・女性・要介護1)
- ◆ お袋とあれ(弟)の尻拭いばかりしてきたんや。…(中略)…そやからに嫁ももらうヒマなかった、間がなかったんや。(70歳・男性・要介護3)

2 考察

“家族との関係”と一言で言っても、子どもとの関係、嫁(婿)との関係、兄弟(姉妹)との関係など様々な関係を見出せた。その中でも、既婚者が多かったため、やはり子どもとの関係の話が一番多く出た。しかし関係の疎密度、また、関係者の人数はそれぞれ違っており、その関係者の幅も夫(妻)から甥・姪、ひ孫まで出てくる人もいて、とても多様であった。このことは、従来の“両親の面倒は長男(またはその嫁)が看る”という“家族介護”の概念が変わってきているということをよく示しているのではないだろうか。

【図1】では今回の調査における家族関係を四象限で示した。縦軸に関係の疎密度、横軸に関係者の人数、そして円は関係者の幅を表している。例えば、近隣に友人はなく、普段接する人間は家族のみという場合、関係者の幅が狭く、人数も少数としか関わっていないということになる。しかし、その関係

【図1】



者と毎日電話をしていたり、週2・3日会っていたりすると、その関係は密であると言える。一方で、それとは全く逆の関わり方をしている人もいる。どちらが良い悪いというわけではない。幅広い交友関係を持つ人もいれば、限られた人と深く付き合っていく人もいるように、家族とも、個々の性格や生活にあった関係を築いていけばいいのだ。

また、今回調査で、家族の話が一切出てこなかった人もいた。しかし、だからと言ってその人が全く誰とも関わらず、援助もなく生活しているのではない。友人・知人・社会資源との関係が密である場合があるのだ。単身高齢者を支えるのは“家族”だけではないのだ。次章では高齢者とその家族以外の人間や社会資源との関係をみて、地域福祉のあり方も考察していく。